



倉沢里山を愛する会 会報
アリスの丘ファーム

NEWS LETTER NO.88
2019年 冬号(1月1日 発行)

発行人 峰岸 純夫
編集人 小泉正美・祐子

事務局(田村 裕介・はる子)

〒191-0033
東京都日野市百草 698-6
TEL/FAX 042-592-5859
Email: info@alice-fm.info
URL: http://alice-fm.info

日野市在住で元小学校教員の加藤暉子さん。自宅を開放し【かるがも文庫】を主催する、根っから子ども好き、自然好きという加藤さんが当会の活動を見学され、素敵なイラストとともに感想をお寄せくださいました

☆☆ 活動を見学して ☆☆



加藤暉子さん

去る10月20日、「倉沢里山を愛する会」の作業の様子を見学させて頂きました。厚かましいお願いをお聞き下さってありがとうございました。長い間の念願がかない、私にとって幸せな半日となりました。

都市化の進むこの町に、このような自然豊かな里山があるというのは奇跡のようなことだと思います。会報をまとめた『緑の風は永遠に』を読ませて頂き、改めてどのような経緯でいまがあるのかを詳しく知ることができました。

じつは私自身も、いってみれば里山育ちです。1945年、山の手空襲を避けるために個人疎開したのは、いまの八王子市打越町、当時は由井村でした。それまでは、近隣の方が入合地のように雑木林を利用し、手入れをされていたということは、のちに知りました。ササヤブを切り払い栗の木を倒して、父親が掘立小屋を建てて住みました。春にはフデリンドウやキンラン、ギンランが咲き、やがてたくさんのヤマツツジが咲く。夏にはヤマユリ、秋にはオミナエシやワレモコウが咲きました。サワガニやカメがいたり、池にはヒキガエルが毎年産卵に集まりました。私の里山への憧憬は、こういうところで育った影響なのだろうと思います。

しかし、自然を愛でつつも自然を守る仕事はわが家族は不得手でした。自然のままに放置するのが自然を守ることだと考えた兄もいました。

それから何十年もたったいま、かつての美しかった里山は、まるで原生林のようになって住む人もなくなり、

実質相続人の私も手がつけられないやっかいな土地になってしまいました。お恥ずかしいことです。この間、何回も倉沢里山のことを思いました。しかし、八王子市は寄付を受け入れてはくれません。こうして、全国の里山は、いたるところで崩壊していくのだと思います。個人の手で保存するのは難しいのです。

山があって人があり、人は山を利用させてもらいながら、山の手入れをする。そういう営みがこの国には長いことあって、里山は守られてきたのだと思います。

このように考えたとき、大げさではなく倉沢里山の存在は奇跡だと思います。

折しも、ヤマトリカブトが美しく咲いていました。この花ばかりは、私の育ったところでも見ることはできませんでした。この会には植物学者というにふさわしい方がおられて、一木一草を慈しみ守られていることに感動を覚えました。

目下、私のスケジュールの中に、会の活動を入れ込むのは難しいのですが、なんらかの形で応援させて頂きたく思っています。そして、お許し頂けるなら、また季節をかえてお邪魔させて頂きたいと…。

本当にありがとうございました。



「倉沢里山を愛する会」との出会い

神谷 正明



奥さんの由美子さんと作業中

私たちが「倉沢里山を愛する会」に参加するようになったのは、百草台コミュニティセンターで会員の小林治郎さんにお会いしたのがきっかけでした。うちのかみさんは山歩きが好きで、小林さんから紹介していただいたシニアクラブの「トレッキングの会」への参加を通じて、この会の存在と、アリスの丘

で畑が借りられることを知り、さっそく入会しました。

もともと山遊び（山仕事？）が好きで、毎年1度は北海道の山林で刈り払機を使った下草刈り、チェーンソーを使った倒木処理、トタン張り掘立小屋の修理などを行っています。なにせ遠い。とうとう去年は断念してしまいました。ちょうどそんなころに「倉沢里山を愛する会」

と出会いました。これまでに参加したのは、9月の栗のイガ片づけ作業から11月の下草刈りと倒木の片づけです。

そのなかでうれしかったことが2つあります。1つは食べ物が手に入ったことです。栗をこんなにたくさん食べたことはありませんでした。正月用に栗だけでつくる栗きんとんのストックをして楽しみました。そして柚子！ 無農薬なのでキズが多いですが、皮が厚いので作業がしやすく、かつ、香り高い柚子胡椒（同分量の柚子の皮と青唐辛子をそれぞれ刻んですりつぶし、2つを合わせた総量の20%の塩を混ぜ合わせるだけという簡単なもの）になりました。

2つ目は、チェーンソーに関することです。本体の整備は北海道の業者に任せていて、自分ではやっていませんでした。今回、いろいろ教えていただきました。目立てをする際にデプスゲージを削るなんてことは、すっかり忘れていました。道具は持っているのにやったことがなかった。削ったら、切れアジ復活！

と、とりとめもなく、これを書いている時点でかみさんは出かけているので、植物保護に関して、なにかとても感心、感激していた、ということを書きそえておきます。

クサギ

杉本 とも子

新連載



繁殖力が強く、各地に普通にある落葉高木のクサギ（臭木）。倉沢の里山でもあちらこちらで見かけま

す。葉に触ったり、切ったりすると悪臭がすることから、このような不名誉な名前がつきました。しかし、夏には赤いがくをつけた白い花をつけ（写真①）、柑橘系のさわやかな香りが漂います。秋になると球形で紺色に輝く実をつけ、つやのある赤いがくと色の取り合わせがとてもかわいいです（写真②）。花を見るとき、実を摘むとき、この名前はかわいそうに、と思います。先人たちは若葉を食用にしてきました。根には少し毒があるのですが、この毒をいやす方法で薬用に用いてきたようです。

クサギの葉や紺色の実、赤いがくは、草木染には欠かせない重宝な染料になります。葉からは灰色の*「鈍色」（にびいろ）*に染めることができました。クサギで染めるときは、実または葉を入れた水を加熱し熱煎します。抽出した青または黒い色素



の溶液（＝染液）に布を浸します。2番液、3番液と取り出した溶液で、何回も繰り返し染め重ねます。実の染液では初回「緑がかった空色」に染まりますが、回を重ねると「水色」、「群青色」と濃い色に変わっていきます。葉の染液では、徐々に灰色が濃くなっていきます。繰り返し行う作業は大変ですが、そのたびに色合いが濃くなっていくさまにワクワクし、疲れも吹っ飛びます。



小さな巻きは葉で染めた「鈍色」の糸。木枠の糸は実で染めたもの、布は実で数回重ね染めして「水色」に

この染材が重宝されているのは、色を定着させるための媒染が不要なので、工程が短縮できるという利点のほか、染め上げた糸で織った布の風合いがとてもよいというのも大きな魅力です。

里山を歩くとき、クサギを見つけたら、染まる色の美しさに思いをはせてみてください。

* 草木染で使われる日本古来の色の名前 *

鈍色（にびいろ） 平安時代から使われている色名です。墨色の濃いものから灰色の淡いものまで総称していいです。当時は身近な人の葬儀で着る喪服の色でした

※この連載では、植物から染まる色の説明に和名を使い、想像しにくい色には簡単な説明を加えます。それぞれの和名には微妙な色の違いを判別し命名した先人の繊細さが感じとれます

畑が私の「パワースポット」

椎塚 かがり

今季も遅まきながら無事にタマネギの植えつけが終わりました。入会して何年? になったのか。近ごろ、健忘が激しくて困ります、トシですね(笑)。タマネギを植えたのが3回目で…、ジャガイモも3回目なので…里山の自然に魅せられて、畑仕事に慣れて、会の皆さんのお仕事ぶりを見よう見まねで、もう3年もたちました。

憧れの野菜づくり、畑を始めたばかりのころはマニュアル本を買ひ込み、NHKの「やさいの時間」を録画して何度も観ては勉強しました。こんなに熱心に勉強に時間を割いたのは大学受験以来でした(笑)が「慣れは怖い!」です。どんな野菜でも3回目ともなると、かな～り適当になりました。

コツを覚えたというより、手抜きを学習(笑)! でも野菜は生き物なんですよ、結果を見れば歴然です。とくに土づくりは大事で、手をあげばさんたんたる結果…これは本当に自業自得です。私の畑の周りの方は、とても野菜づくりがお上手で、しかも仕事が早い! いつかその技を盗もうと観察していますが、なかなか難しいです。それでも、ひとり暮らしをしている実家の母へ収穫した野菜を送って喜ばれています。

自分で野菜をつくり始めてから、農作業の奥深さと、農家の皆さんのご苦勞を感じるようになりました。昨夏のように台風が多かったり、天候に左右される野菜づくりでは、毎年同じように収穫が期待できるわけではないことを実感し、お店で買う野菜にも感謝を忘れません。

畑を始める前までの私は、どちらかといえばインドア派で、音楽を聴いたり読書が趣味で、運動不足が少々気になっていました。昔からの偏頭痛持ちで軽いヘルニアで腰痛もたびたびでしたが…。イライラすることや嫌なことがあったとき、体調がなんとなくすぐれないときには、気分転換に畑へと向かうようになりました。ひと汗かいて、帰宅するころには、大抵治ってしまっているから、あら不思議です。無心に雑草を取ったり、土いじりをしていると気分がスッキリします。ヘタな薬を飲むより健康的な生活になりました。どうやら風や土の香り、畑の仲間たちとのひとときは、私を元気にしてくれるようです。それに適度な運動にもなり、近場で安上がり(笑)の一石二鳥、いまではすっかり畑が私の「パワースポット」になりました。

最後になりましたが、会の活動に参加することで、微力ながらも地域への貢献ができているならうれしい限りです。活動日だけでなく、植物保護に参加して植物名を覚えたり、ニュースレターで植物や野鳥のコラムを読んだり、楽しみも増えました。



白い胸に黒いネクタイ。いちばん見慣れている小鳥のひとつでしょう。近くにそれなりの林があればのことですが、ネコやヘビのことを考えて直径28～30mmの穴を開けた巣箱を設置すると、決まって入居して子育てをします。

巣づくりの段階で、綿毛な

どをいっぱいにくわえて来た親鳥と、上と下とで目が合ってしまう、ともにハタリと動きを止め合ったりするというバツの悪さはこらえなければなりません。やがて、子育て中を告げる「ツッピン、ツッピン」という誇らしげな高鳴きが響くようになります。

ヒナが孵ったとなると、親たちは入れ替わり立ち替わりに虫を運んで来ますが、いたって無造作に



スピードをほとんど落とさずに穴の中に飛び込んでいく親があるかと思うと、連れ合いの方は巣箱から離れた枝に停まって虫をぶら下げながら首をかしげ、「ジツジツジツ」とすごみの効いた警戒音を出しながら、あちらこちらに移ってはためらい、ようやく中央の穴に入ってゆくというようなことがよく見られます。そうした違いをプリントしたDNAを、それぞれにヒナたちは受け継いでいくのでしょう。

脅しついでだからと

巣箱の裏蓋を開けて見

ると、親の警戒に

従ってヒナたちは

1枚のビロードの

ように身を伏せ

合ってピクリとも動

かずにいて…とはいか

ないようで、ご覧の通り。

いっせいにこちらを見ていて、少なくとも6羽は数えられます。

そんなこんなで巣立ちしてから1か月ほどしたころ、親子連れの一団が庭にやって来ることがあります。お礼を言いに来たのだらうと思いつつ眺めることにしております。



里山の植物誌 (86)

フユノハナワラビ (ハナヤスリ科)

シダ植物は常緑性、夏緑性、冬緑性とほぼ3分されます。今回は晩秋から冬にかけて見られる冬緑性のフユノハナワラビ(冬の花蕨)を取り上げました。11月20日の活動日、万蔵院台緑地で保護囲いしている中で、フユノハナワラビの数が減っていることに気がつきました。でも後日、この原稿を書くために長久保緑地に入ってみると、あちらこちらからスーッと顔を出して「こんなにあったの?」と驚きました。この種には明るい林床や草地が適地なので、長久保がよりよい環境なのかと思えます。

ご存知の通り、孢子で増えるシダ植物は、ほぼ根茎(地下茎)と葉(栄養葉と孢子葉)でできています。おなじみのスギナもシダ植物の仲間。光合成をおこなう栄養葉がスギナ、孢子葉がツクシというわけです。一般的には栄養葉と孢子葉は地面下3cmくらいで2分岐するので、栄養葉と孢子葉が1セットで見られませんが、スギナは根茎が地下深くほふくするので、セットで見るのは困難といえます。

フユノハナワラビの栄養葉は5~10cmの長い柄を持つ複羽状葉で暗緑色。孢子葉の柄は長いもので

25cmほど、その先の穂は羽状に分枝して全縁に小粒で驚くほど多数の孢子をつけて上に向かい、それが赤っぽい褐色か明るい茶色をしています。この孢子葉が花にも見えたことから、素敵の名前がつけられたのでしょうか(ちなみにナツノハナワラビもあります)。孢子葉は冬に孢子を散布すると枯れてしまいます。

ハナヤスリ科は、管理地ではオオハナワラビとこのフユノハナワラビの2種しか見つけられていません。

「日野の自然を守る会」の研究グループの報告書には6種があげられていますから、シダ植物に興味を持つ方が増えたら、もっと多くの種が見つかるかもしれませんね。

(峰岸立枝)



10~12月の主な活動記録

- 10/20(土) 第1・万蔵院台緑地の台風被害木処理と片づけ、道路沿い崖地整備他(リゾート/会員提供のお米使用・54名参加)
- 11/3(土・祝) 竹林の倒木等の撤去整備作業、タラの丘・第1緑地など手刈り、被災地支援バザー(恒例の芋煮会・57名参加)
- 11/20(火) ひなた緑地機械刈り、各緑地保護区など手刈り、ひなた・北緑地の被害木片づけ他(おやつ・33名参加)
- 12/15(土) 万蔵院台草刈り、長久保・第1緑地落ち葉掃き、長久保緑地・竹林倒木処理他(参鶏湯風スープ・41名参加)

1~3月の主な活動予定

持ち物: バンダナ、手袋、飲料水、スタンプ帳、My食器
 集合場所&時間: 各回とも炭焼き小屋広場に10:00
 (注/1月9日の活動のみ、午前の部は9:00、午後の部は13:30に、いずれもアリスの丘駐車場集合)

- 1/9(土) 日野市と協働で被害木等の伐採と片づけ他(午前、午後の活動は各1回のカウントで、どちらかだけの参加も可。お昼は軽食を用意)
- 1/26(土) 万蔵院台・第1緑地落ち葉掃き、長久保緑地とアリスの丘果樹剪定他
- 2/10(日・祝) タラの丘・第2緑地落ち葉掃き他
- 3/16(土) 緑地内全域の整備、シイタケの種駒植菌他

※雨天時はそれぞれ翌日に顺延

※緑地の状況により内容を変更する場合があります

☆☆☆☆☆ 事務局から ☆☆☆☆☆

- ☆2019年を迎えました。皆さまにとって、穏やかな年になりますようお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。
- ☆ファームII西側斜面地の拡大部分については、整地・測量・区画設定等の作業を始めます。また、本会に移管された「風の丘ファーム」も当初の方針が変更になり、同様の作業を今後行なっていきます。作業日時については、1~2月にご案内しますのでご協力をお願いします。なお、この作業への参加は、活動回数にカウントします。
- ☆上記事項により、本会の耕作面積がかなり増えますので、新しい会員勧誘も含め、お友達にも声をかけて下さい。あわせてご協力をお願いします。両区域とも、3月ごろから利用できる予定です。
- ☆ファームIIの西側斜面地が拡大することとなったアリスの丘、そして風の丘の両ファームは、いうまでもなく「倉沢里山を愛する会」の核であり顔でもあります。緑地とともに畑の管理状況も周囲から注目されています。雑木林と畑が循環する里山を市民の手で守るという理念を、従来以上にアピールしていきましょう。